

1

解答解説のページへ

次の問いに答えよ。

- (1) 英語の本と日本語の本が全部で 10 冊ある。その中から 3 冊取り出すとき、英語の本が 2 冊と日本語の本が 1 冊である確率が、 $\frac{7}{40}$ となる。このとき、日本語の本は何冊あるか答えよ。
- (2) 各組が 12 枚ずつからなる赤、青、黄色の 3 組のカードがあり、各組ごとに 1 から 12 までの異なる数がひとつずつカードに書かれている。それぞれの色のカードの組から 1 枚ずつ取り出すとき、数の合計が 15 となる取り出し方は何通りあるか答えよ。

2

解答解説のページへ

θ を $0^\circ < \theta < 180^\circ$ とする。2つの数列 $\{x_n\}$, $\{y_n\}$ を

$$x_1 = \cos\theta, \quad y_1 = \sin\theta, \quad x_{n+1} = \sqrt{\frac{1+x_n}{2}}, \quad y_{n+1} = \frac{y_n}{2x_{n+1}} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

によって定める。次の問いに答えよ。

- (1) x_2, y_2 を計算せよ。さらに、一般項 x_n, y_n を求めよ。
- (2) $n \geq 7$ ならば、 $(x_n + y_n i)^{4n} = i$ とはならないことを示せ。ただし、 $i = \sqrt{-1}$ は虚数単位とする。
- (3) θ が $90^\circ < \theta < 180^\circ$ の範囲にあるとき、 $(x_n + y_n i)^{4n} = i$ となる n と θ を求めよ。

3

解答解説のページへ

関数 $f(x) = x^3 - ax^2 + b$ の極大値が 5, 極小値が 1 となるとき, 定数 a, b の値を求めよ。

4

解答解説のページへ

2つの単位ベクトル \vec{a} と \vec{b} のなす角を θ とする。次の問いに答えよ。

- (1) 2次関数 $f(x) = |x\vec{a} + \vec{b}|^2$ の $x \geq 0$ における最小値を求めよ。
- (2) θ が $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の範囲を動くとき、放物線 $y = f(x)$ の頂点が描く軌跡を求めよ。
- (3) (2)で求めた軌跡と x 軸が囲む図形の面積を求めよ。

1

問題のページへ

- (1) 日本語の本が
- x
- 冊, 英語の本が
- $10-x$
- 冊とすると, 条件より,

$$\frac{{}_{10-x}C_2 \times {}_x C_1}{{}_{10}C_3} = \frac{7}{40}, \quad 40 \cdot \frac{(10-x)(9-x)}{2} x = 7 \times 120$$

$$(10-x)(9-x)x = 42, \quad (x-7)(x^2 - 12x + 6) = 0$$

よって, $x = 7, 6 \pm \sqrt{30}$ となり, x は整数より, 日本語の本は 7 冊ある。

- (2) 赤色の組から取り出すカードの数を
- a
- , 青色の組から取り出すカードの数を
- b
- , 黄色の組から取り出すカードの数を
- c
- とおくと, 条件より,

$$a + b + c = 15 \quad (1 \leq a \leq 12, 1 \leq b \leq 12, 1 \leq c \leq 12) \cdots \cdots (*)$$

さて, $1 \leq a, 1 \leq b, 1 \leq c$ の条件のもとで, $a + b + c = 15$ を満たす (a, b, c) の組の個数は, \bigcirc を 15 個並べて, その間の 14 か所に 2 つの「しきり」を入れる場合の数として数えられるので, ${}_{14}C_2 = 91$ 通りとなる。

次に, この 91 通りのなかで, $a \leq 12, b \leq 12, c \leq 12$ を満たさない場合は,

$$(a, b, c) = (1, 1, 13), (1, 13, 1), (13, 1, 1)$$

よって, $(*)$ を満たす場合の数は, $91 - 3 = 88$ 通りとなる。

[解説]

(1) の 3 次方程式の因数分解については, $42 = 3 \times 2 \times 7$ に注目して, 因数の「あたり」をつけることができます。

2

問題のページへ

$$(1) \quad x_2 = \sqrt{\frac{1+x_1}{2}} = \sqrt{\frac{1+\cos\theta}{2}} = \sqrt{\frac{\cos^2\frac{\theta}{2}}{2}} = \left| \cos\frac{\theta}{2} \right|$$

$0^\circ < \theta < 180^\circ$ から, $0^\circ < \frac{\theta}{2} < 90^\circ$ なので, $x_2 = \cos\frac{\theta}{2}$ となる。

$$y_2 = \frac{y_1}{2x_2} = \frac{\sin\theta}{2\cos\frac{\theta}{2}} = \frac{2\sin\frac{\theta}{2}\cos\frac{\theta}{2}}{2\cos\frac{\theta}{2}} = \sin\frac{\theta}{2}$$

これより, $x_n = \cos\frac{\theta}{2^{n-1}}$, $y_n = \sin\frac{\theta}{2^{n-1}}$ と推測される。

以下, この推測の正しいことを数学的帰納法で証明する。

- (i) $n=1$ のとき 明らかに成立する。
(ii) $n=k$ のとき $x_k = \cos\frac{\theta}{2^{k-1}}$, $y_k = \sin\frac{\theta}{2^{k-1}}$ と仮定する。

$$x_{k+1} = \sqrt{\frac{1+x_k}{2}} = \sqrt{\frac{1+\cos\frac{\theta}{2^{k-1}}}{2}} = \sqrt{\frac{\cos^2\frac{\theta}{2^k}}{2}} = \left| \cos\frac{\theta}{2^k} \right|$$

$0^\circ < \frac{\theta}{2^k} < 90^\circ$ より, $x_{k+1} = \cos\frac{\theta}{2^k}$

$$y_{k+1} = \frac{y_k}{2x_{k+1}} = \frac{\sin\frac{\theta}{2^{k-1}}}{2\cos\frac{\theta}{2^k}} = \frac{2\sin\frac{\theta}{2^k}\cos\frac{\theta}{2^k}}{2\cos\frac{\theta}{2^k}} = \sin\frac{\theta}{2^k}$$

よって, $n=k+1$ のときも成立する。

(i)(ii)より, $x_n = \cos\frac{\theta}{2^{n-1}}$, $y_n = \sin\frac{\theta}{2^{n-1}}$

(2) $z_n = x_n + y_n i = \cos\frac{\theta}{2^{n-1}} + i \sin\frac{\theta}{2^{n-1}}$ とおくと,

$$z_n^{4n} = \cos\frac{4n\theta}{2^{n-1}} + i \sin\frac{4n\theta}{2^{n-1}} = \cos\frac{n\theta}{2^{n-3}} + i \sin\frac{n\theta}{2^{n-3}}$$

$$z_n^{4n} = i \text{ より, } \cos\frac{n\theta}{2^{n-3}} = 0 \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad \sin\frac{n\theta}{2^{n-3}} = 1 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

ここで, $\frac{1}{2} - \frac{n}{2^{n-3}} = \frac{2^{n-4} - n}{2^{n-3}}$ から, $n \geq 7$ のとき, $2^{n-4} > n$ であることを, 数学的

帰納法で証明する。

(i) $n=7$ のとき $2^{7-4} > 7$ より成立する。

(ii) $n=l$ のとき $2^{l-4} > l$ と仮定する。

$$2^{l-3} - (l+1) > 2l - (l+1) = l-1 > 0$$

よって, $n=l+1$ のときも成立する。

(i)(ii)より, $n \geq 7$ のとき, $2^{n-4} > n$ となる。

すると, $\frac{1}{2} > \frac{n}{2^{n-3}} > 0$ から $0^\circ < \frac{n\theta}{2^{n-3}} < 90^\circ$ となり, $\textcircled{1}\textcircled{2}$ を満たす n は存在しない。

(3) (2)より, $1 \leq n \leq 6$ の場合について考える。

n と $\frac{n}{2^{n-3}}$ との対応をまとめる

n	1	2	3	4	5	6
2^{n-3}	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1	2	4	8
$\frac{n}{2^{n-3}}$	4	4	3	2	$\frac{5}{4}$	$\frac{3}{4}$

と, 右表のようになる。

そこで, $90^\circ < \theta < 180^\circ$ から,

①②を満たす θ を求める。

(i) $\frac{n}{2^{n-3}} = 4$ ($n = 1, 2$) のとき

$360^\circ < 4\theta < 720^\circ$ から, $4\theta = 360^\circ + 90^\circ$, $\theta = 112.5^\circ$

(ii) $\frac{n}{2^{n-3}} = 3$ ($n = 3$) のとき

$270^\circ < 3\theta < 540^\circ$ から, $3\theta = 360^\circ + 90^\circ$, $\theta = 150^\circ$

(iii) $\frac{n}{2^{n-3}} = 2$ ($n = 4$) のとき

$180^\circ < 2\theta < 360^\circ$ から, ①②を満たす θ は存在しない。

(iv) $\frac{n}{2^{n-3}} = \frac{5}{4}$ ($n = 5$) のとき

$112.5^\circ < \frac{5}{4}\theta < 225^\circ$ から, ①②を満たす θ は存在しない。

(v) $\frac{n}{2^{n-3}} = \frac{3}{4}$ ($n = 6$) のとき

$67.5^\circ < \frac{3}{4}\theta < 135^\circ$ から, $\frac{3}{4}\theta = 90^\circ$, $\theta = 120^\circ$

(i)~(v)より, $(n, \theta) = (1, 112.5^\circ), (2, 112.5^\circ), (3, 150^\circ), (6, 120^\circ)$

[解説]

難問というわけではないのですが, 忍耐力を要する問題です。数学的帰納法も 2 回も登場しています。

3

問題のページへ

$$f(x) = x^3 - ax^2 + b \text{ に対し, } f'(x) = 3x^2 - 2ax = x(3x - 2a)$$

$f'(x) = 0$ の解は, $x = 0, \frac{2}{3}a$ となり, 極値をもつことから $a \neq 0$ である。

(i) $a > 0$ のとき

極大値が 5, 極小値が 1 より,

$$f(0) = b = 5 \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$f\left(\frac{2}{3}a\right) = -\frac{4}{27}a^3 + b = 1 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2} \text{ より, } -\frac{4}{27}a^3 = -4, a = 3$$

x	...	0	...	$\frac{2}{3}a$...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗		↘		↗

(ii) $a < 0$ のとき

極大値が 5, 極小値が 1 より,

$$f\left(\frac{2}{3}a\right) = -\frac{4}{27}a^3 + b = 5 \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$$f(0) = b = 1 \cdots \cdots \textcircled{4}$$

$$\textcircled{3}\textcircled{4} \text{ より, } -\frac{4}{27}a^3 = 4, a = -3$$

x	...	$\frac{2}{3}a$...	0	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗		↘		↗

(i)(ii) より, $(a, b) = (3, 5), (-3, 1)$ **[解説]**

3 次関数の増減を調べる微分の基本題です。

4

問題のページへ

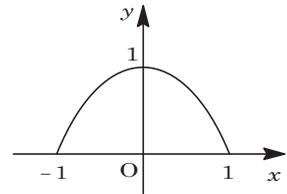
$$(1) \text{ 条件より, } f(x) = |x\vec{a} + \vec{b}|^2 = |\vec{a}|^2 x^2 + 2x\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 = x^2 + 2x \cos \theta + 1 \\ = (x + \cos \theta)^2 - \cos^2 \theta + 1 = (x + \cos \theta)^2 + \sin^2 \theta$$

(i) $\cos \theta < 0$ ($90^\circ < \theta \leq 180^\circ$) のとき $x = -\cos \theta > 0$ より, $x \geq 0$ における最小値は, $\sin^2 \theta$ ($x = -\cos \theta$) となる。(ii) $\cos \theta \geq 0$ ($0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$) のとき $x = -\cos \theta \leq 0$ より, $x \geq 0$ における最小値は, 1 ($x = 0$) となる。(2) 放物線 $y = f(x)$ の頂点を (x, y) とおくと,

$$x = -\cos \theta, \quad y = -\cos^2 \theta + 1$$

よって, $y = -x^2 + 1$ となる。また, $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ より $-1 \leq x \leq 1$ となり, 求める軌跡は, 放物線 $y = -x^2 + 1$ ($-1 \leq x \leq 1$) である。(3) (2)の放物線と x 軸が囲む図形の面積を S とすると,

$$S = 2 \int_0^1 (-x^2 + 1) dx = 2 \left[-\frac{x^3}{3} + x \right]_0^1 = \frac{4}{3}$$



[解説]

数Ⅱ, 数Bの基本問題の組合せです。